

子ども発達学科准教授 安部 孝

1. 研究活動

【学会 研究発表 要旨】			
<p>道徳教育実践の視点2 —生活における「かかわり」 への着目—</p>	<p>2013. 8</p>	<p>平成 25 年度 日本教育学会 第 72 回大会 於：一橋大学国立キャン パス</p>	<p>本研究では、子どもの道徳性を考えるに当たって、周囲の者の「かかわり」の意味について、S 幼稚園の教育課程や『幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集』、『幼稚園教育要領』、学生の「かかわりに」についてのイメージを手掛かりにして考察した。その結果「かかわり」は教育課程や教育要領のねらいや内容、保育者の意図や配慮の表現に含まれており、保育のねらいとなり評価されるものであることが分かった。</p> <p>■『平成 25 年度日本教育学会第 72 回大会発表要旨集録』 pp348-349. 単独口頭</p>
<p>幼小連携をとらえる視点1 ～幼稚園の活動の意味から～</p>	<p>2013. 9</p>	<p>全国保育士養成協議会 第 52 回研究大会 於：かがわ国際会議場</p>	<p>本研究では、『幼稚園教育要領』に示された幼小連携にかかわる記述や、幼稚園の幼小の接続を考慮した取り組みの特徴を手掛かりとして幼小連携における保育者の視点や思いについて検討した。その結果『要領』には大きな方向性が書かれてあるが、具体的にイメージすることは難しいことが分かった。またアプローチカリキュラムなどの計画では、子どもの自然な心情が立ち上がることは十分予想されていないことが課題となった。</p> <p>■『全国保育士養成協議会 第 52 回研究大会研究発表論文集』 pp556-557. 単独口頭</p>

<p>子どもの道徳性を培う教育 についての考察1 —教育・保育課程を手がかりに—</p>	<p>2013. 11</p>	<p>日本道徳教育学会 第82回大会 於：札幌国際大学</p>	<p>幼児の道徳性を培う教育について、“小学校以降の生活や学習につながる”という視点から『幼稚園教育要領』（平成20年）及び『同解説』を検討し、考察した。その結果、領域「人間関係」の「道徳性の芽生え」に関するいくつか表現・記述は各領域に共通して見られたが、道徳性や価値として示されたものではない。しかし、「かかわり・信頼関係」は小学校の道徳教育でも重視されており、学習や生活の連続性を考える視点になると考えられた。</p> <p>■『日本道徳教育学会第82回大会発表要旨集』pp65-66. 単独口頭</p>
<p>「心の教育についての一考察2 —かかわりと思いやり—</p>	<p>2013. 12</p>	<p>日本仏教教育学会 第22回学術大会 於：武蔵野大学有明キャンパス</p>	<p>本研究では、思いやりの意味について、かかわりににおける思いの有無や思いを受容する存在の働きに着目し、「開目抄」（日蓮）を援用することで検討した。その結果、思いやりは必ずしも、相手を推し量るものであるとは言えず、その意味で、自他の思いの不一致が考えられた。また、思いやりの基底には、いたたまれない心情が考えられ、今後、行為の選択と思いを生む理由について検討する必要があると考えた。</p> <p>■『日本仏教教育学会第22回学術大会発表要旨集』p18. 単独口頭</p>
<p>【学術論文等】</p>			
<p>「道徳教育実践の視点2 —幼児教育における『かかわり』を手掛かりに(1)—</p>	<p>2014. 3</p>	<p>『名古屋芸術大学研究紀要第35巻』 名古屋芸術大学</p>	<p>「同1」から本稿では、幼児の道徳性を育成するための教師と幼児との「かかわり」に着目し、その意味を『幼稚園教育要領』（平成20年）、『同解説』を手掛かりに検討した。その結果、「かかわり」の要因や意味として「信頼感」「愛情」「親しみ」「柔軟な環境」「温かな雰囲気」が考えられ、また、「応答」的で「受容」的な「かかわり」が必要であり、今後、道徳性における発達連続性を踏まえた検討が必要であると考えた。(pp1-17). 単著</p>
<p>「振り返りを生かした教育実践についての考察1 —教師の『気になる』の意味に着目して— (査読有)</p>	<p>2014. 3</p>	<p>『名古屋芸術大学人間発達研究所年報第3巻』 名古屋芸術大学人間発達学部・人間発達研究所</p>	<p>本研究では、名古屋芸術大学附属幼稚園の園内研究を手掛かりに、教師の保育の「振り返り」の動機となる「気になる」心情に着目し、その意味について考察した。その結果、「気になる」は、教師のねがいや幼児への思い、経験、そして幼児の実態と教師のねがいの「ずれ」等に由来し、当初抱いた「気になる」が援助の見通しをもたらすことで、それ自身と教師と幼児の関係は変容すると考えられた。「気になる」の変容の意味の検討が新たな課題となった。(pp7-23). 共著</p> <p>■共著者／安部孝、林妙子、柴田祐子、東牧理恵、窪田仁美、早川葉子、大塚有沙、三浦まなみ</p>

<p>「幼児の道徳性をはぐくむ『かかわり』についての考察」 (査読有)</p>	<p>2014. 3</p>	<p>『道徳と教育』322号 日本道徳教育学会</p>	<p>本稿では、幼児の道徳性を育成するための教師と幼児との「かかわり」について『幼稚園教育要領』（平成20年）、「同解説」を手掛かりに、「環境」の構成と「信頼関係」の構築の意味に着目して検討した。その結果、幼児の道徳性の育成には「信頼感」「愛情」「愛着」「親しみ」「温かな雰囲気」などの「環境」と、「信頼関係」、「かかわり」については「受容」や「応答」が必要であると分かった。それらは幼児の内面に起因し、その意味で幼児もまた「環境」の構成者であることも明らかになった。(pp15-26.) 単著</p>
<p>「幼小のつながりについての考察 —道徳教育を手掛かりに—」</p>	<p>2014. 3</p>	<p>『名古屋芸術大学教職センター紀要第1号』 名古屋芸術大学教職センター</p>	<p>本稿では、道徳教育を手掛かりとした幼小の教育のつながりについて考察した。その結果、幼児期に培った道徳的心情や安心を希求する内面は小学校では直接評価されにくく、まず幼小それぞれの接続の責を全体的に理解する必要があることが分かった。そして、実践事例から道徳性の育成の手掛かりとして、それを生活場面に広げることや、他者の思いを「よかったこと」(安心)として受け止める自己への気付きが大切であると考えられた。(pp49-63.) 単著</p>
<p>【著書】</p>			
<p>『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』 「2 幼稚園・保育所実習」</p>	<p>2013. 4</p>	<p>同文書院</p>	<p>保育者養成における学生が幼稚園や保育所、そして児童福祉施設で実習を行う際の、事前事後指導はもとより、実習においても独習可能なテキストとして執筆・編集されている。特に安部は、幼稚園・保育所実習についての内容を担当した。幼児教育・保育における今日的課題でもある、特別支援、認定こども園における実習の取り組みも取り上げている。主に(7)を改訂(認定こども園、特別支援等)。(執筆箇所：pp26-27., 36-63.) 共著 ■編著者 石橋裕子、林幸範 ■執筆者／石橋裕子、林幸範、神戸洋子、安部孝、堀科、石本真紀、浅倉恵子、梅澤実、森田満理子</p>

『保育カリキュラム論』 「第7章 さまざまな保育の『指導計画』のデザインと実践展開」 「2. 保幼小連携の場合の『指導計画』の工夫（特色ある事例）」	2013. 11	建帛社	保幼小連携を、発達と学びの連続性という視点でとらえ、連続・つながりにおける子どもの経験、幼小の環境の違い（段差）、かかわりの変化などによって生じる様々な課題を示した。そして、実際に取り組まれている幼小連携の実践と指導計画を提示し、小学校におけるスタートカリキュラムの考え方とともに、小学校教育への接続の意味と場面を日常の保育の中に見出す考えを提示した。（執筆箇所：pp97-106.）共著 ■編著者 豊田和子、新井美保子 ■執筆者／豊田和子、新井美保子、渡辺桜、柴田智世、近藤夏子、大岩みちの、伊藤祐子、 <u>安部孝</u> 、清葉子、野田美樹
【社会における主な活動等】			
模擬授業 講師	2013. 6	於：岐阜県立大垣西高等学校	岐阜県立大垣西高等学校 3年生 保育系進学希望者対象 「保育講義初歩 ～子どもとのかかわりから考える～」
模擬授業 講師	2013. 7	於：愛知県立一宮興道高等学校	愛知県立一宮興道高等学校 2年生 保育・幼児教育系進学希望者対象 「保育ということ／保育者になること～子どもが育つということ／子どもに育つもの～」
模擬授業 講師	2013. 10	於：愛知県立一宮興道高等学校	愛知県立一宮興道高等学校 2年生 保育・幼児教育系進学希望者対象 「子どもとのかかわりとしての保育」
模擬授業 講師	2014. 3	於：愛知県立松蔭高等学校	愛知県立松蔭高等学校 1年生 保育・幼児教育系進学希望者対象 「“保育・幼児教育学初歩～子どもの思いを理解することから～”」
愛知県現任保育士研修運営協議会 愛知県現任保育士養成研修「乳児保育士研修」 講師	2013. 8	於：名古屋芸術大学	乳児保育の理論 「保護者との連携」 「連続性への着目」
名古屋芸術大学附属 クリエ幼稚園愛園会 「子育て講演会」 講師	2013. 11	於：名古屋芸術大学	「そだちに応じたほめ方、しかり方」 （叱る前のおまじない「つづきは…また今度。」）

2. 教育活動（教育実践上の主な業績） 大学院授業担当 ■有 □無

3. 学会等および社会における主な活動